

社会

出題の傾向

地理、歴史、公民の3分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大問を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面からとらえており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを確認できるよう出題しています。ただし、出題している内容は必須事項ですので、教科書や資料集などで基本事項を丁寧に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけてください。

2020 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の順で出題しました。地理分野、歴史分野、公民分野ともに出題形式には大きな変化はなく、問い方や考え方は昨年とできるだけ同じ形式になるよう出題を心がけました。今年度の問題傾向と誤答例などについて、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

①日本地理

日本地理は、比較的解答しやすい問題であったように思います。そのため、正答率も全体的に高くよくできていました。正答率が低かった問題としては、まず問5のわが国の漁業方法別の漁獲量の推移をグラフから読み取る問題です。ア～エの文章とグラフを落ち着いて比較すれば解ける問題でした。次に問7の都道府県名と県庁所在地名の一致しないものをすべて選ぶ問題です。基本的な問題なので、是非完答してほしい問題でした。また、特に漢字の間違いが目立ちました。誤答例としては、問1の「環太平洋造山帯」の「環」が「還」になっている。問3の「近郊農業」の「郊」が「効」になっている。問9の「対馬海流」の「馬」が「島」になっている。次年度以降も、漢字の間違いには注意してください。問10の雨温図の問題は、冬季の降水量が比較的多いことから日本海側の気候であると判断できればアの新潟県が導き出せたはずですが、雨温図に関しては、日本地理・世界地理に関わらず毎年出題されることが多いので学習しておくとい良いでしょう。

②世界地理

出題傾向としては、各国の地理的な特徴を〔表〕から読み取り、その国の場所、更にその国の様子を一致させる問題でした。解き方としては、まず〔説明文〕を読んで4つの国を導き、地図を見てその国を結びつけた後、〔表〕を読み取り各国の特色の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の国を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今後も、1つのテーマ〔農牧業・資源（林水産・エネルギー・鉱物）・工業製品など〕について、教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料などと照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。今回の問題では、特に（あ）の正答率が低かったです。（あ）の示す国は、クロム産出量が最も多いことから、南アフリカ共和国を導きだします。また、〔説明文〕の③にある“人口の約70%をしめる黒人に対して徹底した差別政策”や“1991年に差別を定めたすべての法律が廃止された”などのキーワードから南アフリカ共和国のアパルトヘイトを導きだしてほしい問題でした。問1では、誤答として「白豪主義」と答えている受験生が目立ちました。問2は、毎年出題されている時差を求める問題でした。ただ、今回は2020年の閏年を絡めた少し難易度が高い問題であったため例年より正答率の低さが目立ちました。

③歴史分野

□今年度は、古代から現代の歴史までをA～Nの各文で幅広く出題しました。問われた内容のほとんどが歴史上の人物や重要用語であり、比較的よく出来

ていました。しかし、記述問題では漢字の間違いが目立ちました。誤答例として、問1(3)の「藤原頼通」の「通」が「道」になっている。問2の「漢委奴国王」の「委」が「倭」になっている。問7の「菅原道真」の「菅」が「管」になっている。などが特に目立ちました。その他、正答率が低かった問題としては、問4の文化史に関する問題や、問12・問14の世界史に関する問題が挙げられます。例年ですが文化史・世界史・近現代史を苦手とする受験生が多いように感じます。今後もこういった受験生が苦手とする分野の出題はありますので、古代から現代までをまんべんなく学習するように心掛けてください。また、高得点をとるためには、日本史・世界史の各時代の内容整理(政治史・文化史)とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学習を進めておきましょう。今後もこの形式の出題は続きますので、問題をしっかり読むように心掛けましょう。

4 公民分野

□今年度も、新聞の社説からの出題でした。全般的にはよく出来ていましたが、問1・問6・問8の正答率が低かったです。問10は、文章をしっかりと読まなければ解けない問題となっています。社会保障や国際組織、時事的な問題についても基本的な事項をしっかりと押さえておく必要があります。また、例

年経済・金融分野の問題もよく出題しています。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を持ち、教科書の基本事項を理解し、正確に表現・選択できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

今年度の入試は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の大問の出題でした。この出題形式は来年度も継続する予定です。多少出題傾向は変化するかもしれませんが、教科書や資料集などを中心とした出題に変化はありません。今後も基本問題を中心に
出題していきますが、「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけではなく、理解をしているかどうか
に重点をおいた出題を常に心がけています。まず①日本地理では、地図、都道府県の農牧林水産業や工業の様子などを理解しておきましょう。②世界地理では、地図、世界の国々・地域の特徴などを理解しておきましょう。また、時差の計算はできるようになっておきましょう。地理分野では、統計・グラフ等は必ずチェックしておいてください。③歴史では、教科書や資料集などにのっている歴史的な作品や図・資料は必ずチェックしておいてください。④公民では、最近の出来事にも関心を持ち、日頃から新聞の記事などにも興味をもつことが重要です。どの分野においても、教科書・資料集などで基本事項をしっかりと整理し理解を深めれば、高得点をとる事ができるでしょう。

対策と アドバイス